

定 期 作 況 報 告

平成25年8月
(8月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比1％）。日照時間は平年並であった（平年比117％）。

8月上旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比53％）。日照時間は平年並であった（平年比90％）。

8月中旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より極めて高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比47％）。日照時間は平年より少なかった（平年比67％）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温はやや高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

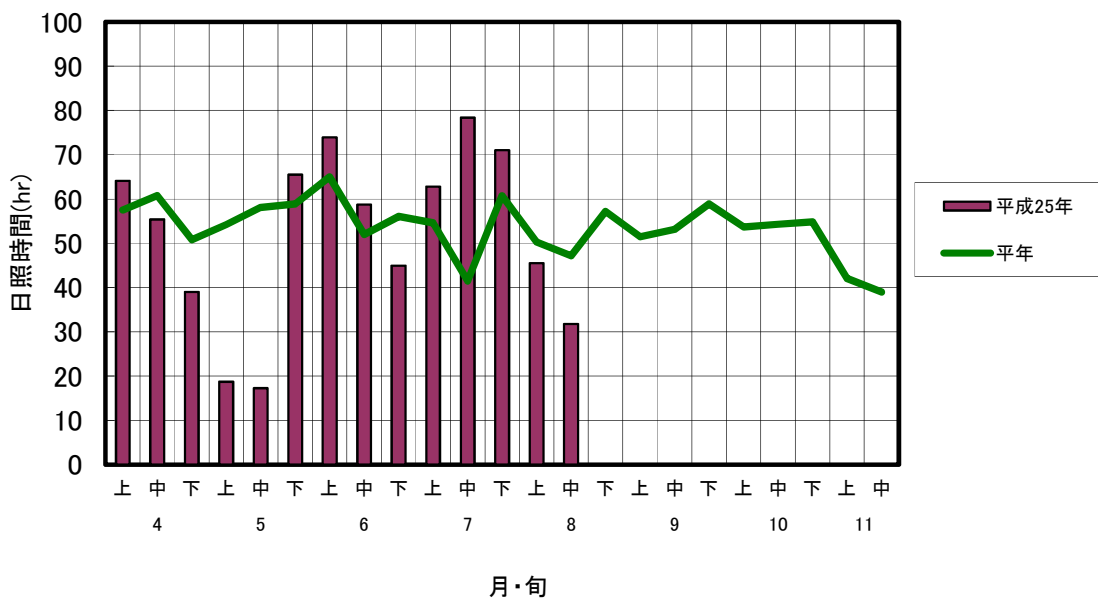
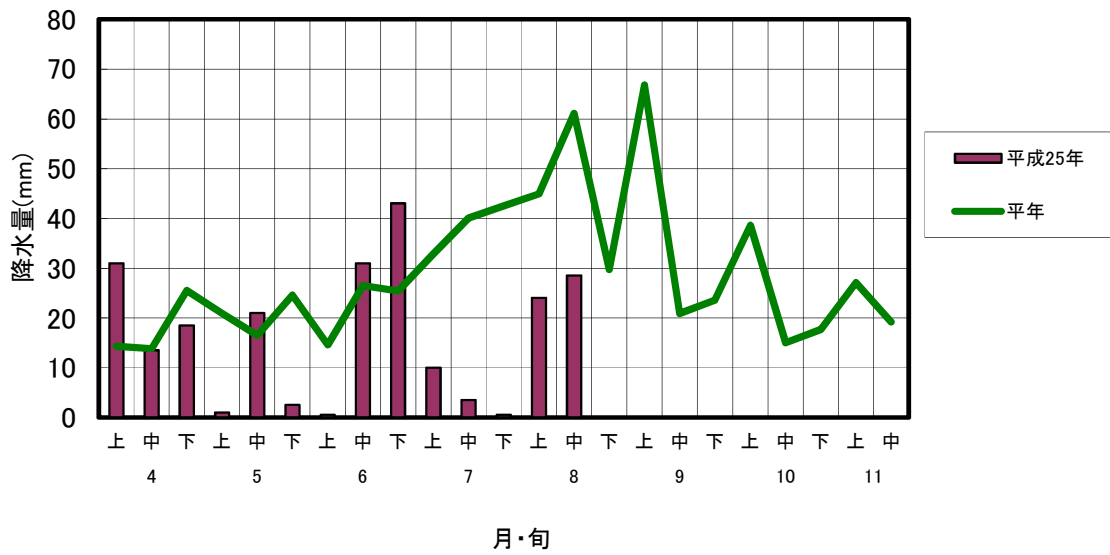
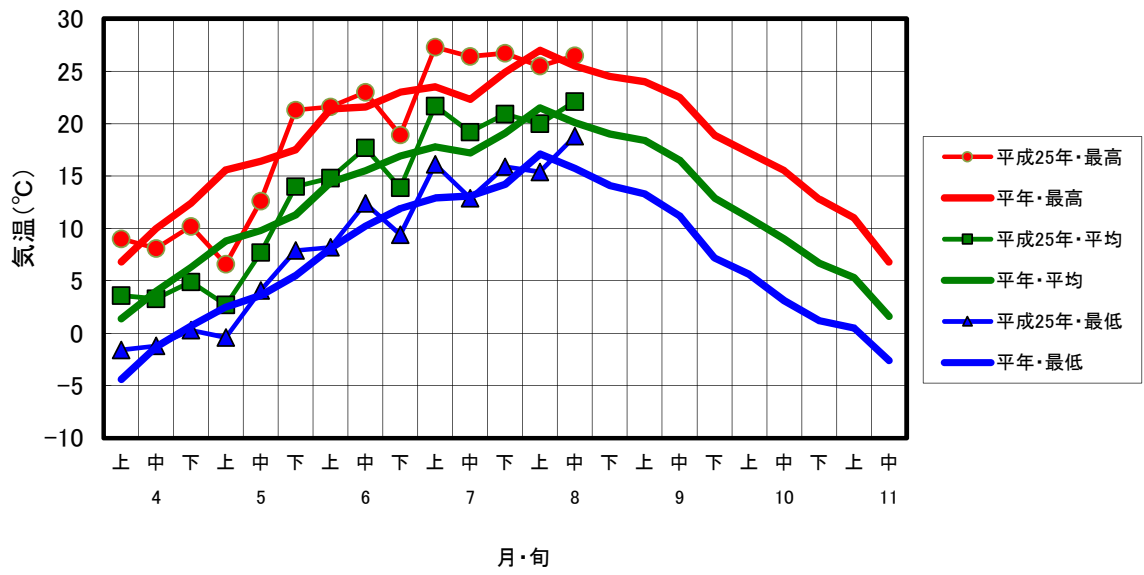
気 象 表

| 項目 月・旬 | 平均気温(°C) | | | 最高気温(°C) | | | 最低気温(°C) | | |
|-----------|----------|------|-------|----------|------|-------|----------|------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 7月下旬 | 20.9 | 19.1 | 1.8 | 26.7 | 24.9 | 1.8 | 15.9 | 14.2 | 1.7 |
| 8月上旬 | 20.0 | 21.5 | △ 1.5 | 25.5 | 27.0 | △ 1.5 | 15.4 | 17.1 | △ 1.7 |
| 8月中旬 | 22.1 | 20.1 | 2.0 | 26.5 | 25.5 | 1.0 | 18.8 | 15.7 | 3.1 |

| 項目 月・旬 | 降水量(mm) | | | 日照時間(hr) | | |
|-----------|---------|------|--------|----------|------|--------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 7月下旬 | 0.5 | 42.5 | △ 42.0 | 71.0 | 60.7 | 10.3 |
| 8月上旬 | 24.0 | 44.9 | △ 20.9 | 45.5 | 50.3 | △ 4.8 |
| 8月中旬 | 28.5 | 61.1 | △ 32.6 | 31.8 | 47.2 | △ 15.4 |

注) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：良

事由：出穂期は平年より1日遅かったが（前報）、成熟期は平年より2日早い7月25日であった。登熟期間が平年より3日短かったものの、7月中旬の日照時間が平年よりも多かったことから子実の充実は良好となり、リットル重および千粒重は平年を上回った。子実重は平年比107%と多かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

| 調査項目 | きたほなみ | | |
|--------------|-------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 成熟期 (月.日) | 7.25 | 7.27 | △2 |
| 子実重 (kg/10a) | 736 | 686 | 50 |
| 同上平年比 (%) | 107 | 100 | 7 |
| リットル重 (g) | 804 | 793 | 11 |
| 千粒重 (g) | 38.5 | 35.9 | 2.6 |

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成19年（最凶）、24年（最豊）を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや不良

事由：出穂期は平年に比べ1日早く、7月以降に高温および少雨で推移したため成熟期は平年に比べ5日早くなった。稈長・穂長は平年並であるが、穂数は平年より少なかった（前報）。赤かび病の発生が一部認められた。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

| 調査項目 | 春よ恋 | | | はるきらり（参考） | | |
|-----------|-----|-----|----|-----------|------|----|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 成熟期 (月.日) | 8.3 | 8.8 | △5 | 8.6 | 8.10 | △4 |

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年（最豊）、21年（最凶）を除く5か年の平均。
「はるきらり（参考）」の平年値は前6か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 7月の気温が全般に平年より高く推移し、日照時間も多かったため、開花期および抽糸期は、それぞれ平年より4日および3日早かった。しかし、7月以降8月中旬にかけて、降水量は平年より少なく、また8月上旬の気温が平年よりやや低かったことから、葉数は平年並であるが、草丈は平年を約48cm下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

| 調査項目 | チベリウス | | |
|----------------|-------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 開花期 (月.日) | 8.1 | 8.5 | △4 |
| 抽糸期 (月.日) | 8.1 | 8.4 | △3 |
| 草丈(cm) (8月20日) | 262.1 | 309.7 | △47.6 |
| 葉数(枚) (8月20日) | 14.8 | 14.8 | 0 |

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況 : 平年並

事 由 : 前報告時の生育は良好であったものの、7月上旬以降、少雨であったことから、生育および着莢数の増加はやや抑制された。莖長および分枝数は平年を上回っているものの、主莖節数および着莢数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

| 調査項目 | ユキホマレ | | |
|------------------|-------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 主莖長(cm) (8月20日) | 69.9 | 64.0 | 5.9 |
| 主莖節数 (8月20日) | 11.3 | 11.0 | 0.3 |
| 分枝数(本/株) (8月20日) | 7.1 | 5.2 | 1.9 |
| 着莢数(莢/株) (8月20日) | 73.6 | 70.6 | 3.0 |

注1) 平年値は前7か年中、21年(最凶)、平成23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：良

事由：開花始は「サホロショウズ」が平年より5日（既報）、「エリモショウズ」が平年より1日それぞれ早かった。7月上旬以降、少雨であったことから栄養生長は抑制され、いずれの品種も主茎長は平年を大きく下回り、主茎節数および分枝数は平年並である。しかしながら、8月上旬以降に適度な降雨があったことから着莢数は順調に増加し、「サホロショウズ」が平年より18%、「エリモショウズ」が平年より32%、それぞれ上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

| 調査項目 | サホロショウズ | | | エリモショウズ | | |
|------------------|---------|------|-------|---------|------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 開花始 (月・日) | 7.20 | 7.25 | △5 | 7.25 | 7.26 | △1 |
| 主茎長(cm) (8月20日) | 52.2 | 70.7 | △18.5 | 46.4 | 61.0 | △14.6 |
| 主茎節数 (8月20日) | 13.3 | 13.1 | 0.2 | 13.9 | 13.7 | 0.2 |
| 分枝数(本/株) (8月20日) | 4.9 | 4.7 | 0.2 | 4.9 | 4.4 | 0.5 |
| 着莢数(莢/株) (8月20日) | 66.2 | 56.3 | 9.9 | 75.6 | 57.2 | 18.4 |

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：やや不良

事由：7月上旬以降、少雨であったことから、栄養生長および着莢は抑制された。主茎節数は平年並であるが、草丈、分枝数および着莢数は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

| 調査項目 | 大正金時 | | |
|------------------|------|------|------|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 草丈(cm) (8月20日) | 42.3 | 45.7 | △3.4 |
| 主茎節数 (8月20日) | 5.0 | 5.1 | △0.1 |
| 分枝数(本/株) (8月20日) | 3.8 | 5.0 | △1.2 |
| 着莢数(莢/株) (8月20日) | 18.6 | 22.1 | △3.5 |

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：8月上旬以降、適度な降雨があったことから塊茎の肥大は順調に進み、上いも重は平年をやや上回り、でん粉価も平年をやや上回っている。地上部生育は前報に引き続き、茎長は両品種とも平年並、茎数は「男爵薯」では平年並で「コナフブキ」では平年より多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

| 調査項目 | 男爵薯 | | | コナフブキ | | |
|----------------------|------|------|-------|-------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 茎長(cm) (8月20日) | 51 | 50 | 1 | 83 | 85 | △ 2 |
| 茎数(本/株) (8月20日) | 3.1 | 3.3 | △ 0.2 | 4.3 | 3.1 | 1.2 |
| 上いも重(kg/10a) (8月20日) | 4492 | 4350 | 142 | 3635 | 3298 | 337 |
| でん粉価(%) (8月20日) | 15.9 | 15.2 | 0.7 | 20.9 | 20.0 | 0.9 |

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：7月下旬までの干ばつ後、8月上旬から適度な降雨があったため、生育は回復傾向にある。茎葉重が平年を下回ったものの、草丈、生葉数はほぼ平年並で、根重、根周は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

| 調査項目 | 移植 | | | | | | 直播 | | |
|-------------------|-------|------|------|-------|------|------|---------|------|-------|
| | モノホマレ | | | アーベント | | | リッカ(参考) | | |
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 草丈(cm) (8月20日) | 58.4 | 63.1 | △4.7 | 56.4 | 58.6 | △2.2 | 52.8 | 64.7 | △11.9 |
| 生葉数(枚) (8月20日) | 27.1 | 26.4 | 0.7 | 26.4 | 26.0 | 0.4 | 20.8 | 21.4 | △0.6 |
| 茎葉重(g/個体) (8月20日) | 756 | 871 | △115 | 805 | 903 | △98 | 651 | 802 | △151 |
| 根重(g/個体) (8月20日) | 828 | 660 | 168 | 835 | 730 | 105 | 648 | 566 | 82 |
| 根周(cm) (8月20日) | 32.1 | 29.9 | 2.2 | 34.3 | 32.2 | 2.1 | 30.6 | 29.1 | 1.5 |

注1) 注平年値は前7か年中、平成21年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前3か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：やや不良

事由：2番草は平年より3日遅い8月13日に収穫を行った。7月上旬以降、降水量が平年より少なく推移したため、平年と比べ節間伸長程度が少なく、草丈は低かった。このため、2番草乾物収量は平年対比83%と平年より少なく、1番草との合計乾物収量は平年対比95%とやや少なかった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

| 調査項目 | | ノサップ | | |
|--------------|-------|------|------|------|
| | | 本年 | 平年 | 比較 |
| 刈取日(月.日) | 2番草 | 8.13 | 8.10 | 3 |
| 節間伸長程度 | 2番草 | 2.0 | 3.2 | △1.2 |
| 病害罹病程度 | 2番草 | 5.0 | 3.4 | 1.6 |
| 草丈(cm) | 2番草 | 40 | 63 | △23 |
| 生草収量(kg/10a) | 2番草 | 653 | 923 | △270 |
| 乾物率(%) | 2番草 | 24.7 | 21.8 | 2.9 |
| 乾物収量(kg/10a) | 2番草 | 161 | 195 | △34 |
| 同上平年比(%) | 2番草 | 83 | 100 | |
| 乾物収量(kg/10a) | 1+2番草 | 775 | 817 | △42 |
| 同上平年比(%) | 1+2番草 | 95 | 100 | |

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況：不良

事由：7月下旬以降、気温はやや高く、降水量は少なめに推移したため、「改良オホーツク1号」の倒伏期は平年と比較して9日早く、「スーパー北もみじ」は同6日早く、「改良オホーツク1号」の枯葉期も平年より13日早かった。一球重は、「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とともに、平年を大きく下回っている。なお、「スーパー北もみじ」では、紅色根腐病の症状が広く認められた。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

| 調査項目 | 改良オホーツク1号 | | | スーパー北もみじ | | |
|---------------|-----------|-------|-------|----------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 倒伏期(月.日) | 7.24 | 8.2 | △9 | 8.6 | 8.12 | △6 |
| 枯葉期(月.日) | 8.10 | 8.23 | △13 | — | 9.5 | — |
| 一球重(g)(8月20日) | 187.8 | 275.2 | △87.4 | 168.7 | 241.2 | △72.5 |

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。